

## 5 里山と竹分科会

### 里山と竹害について

●シンポジウム:  
日時 4月30日(土) 10:00~12:00まで  
場所 東金文化会館2階 第二会議室  
参加者 22名

竹害についての説明  
竹についての相談、質問の実施

メンバー

田代武男(竹研究会会長)  
田中昭三(竹研究会理事)  
林 正治(竹研究会理事)



#### 5 まとめ 里山問題解決には竹の枯殺、竹林の整備が急務

##### ●現状

- 1 里山の美しい竹林は、日本の原風景である。「竹馬の友」といわれるように、これまで子供と竹とは切っても切れない関係にあった。ところがこの40年間に里山をとりまく環境は大きく変化している。
- 2 里山の荒廃の一端は、放置された竹林にある。放竹林は里山の生態系に悪い影響を与え、防災の面からその危険性が指摘されている。



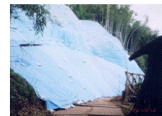
##### ●結論

- 1 子供たちの健全な育成には、美しい里山、美しい竹林が欠かせない。
- 2 里山を守るためには、竹の放竹、竹林の整備が急務である。



##### ●課題

- 1 竹は地下茎で繁殖する間、特性があり、常識的な対応では歯が立たない。竹に対する知識の普及が必要
- 2 放竹林は生物多様性を低下させ、土砂災害を頻発させる。危険性への認識が求められる
- 3 拡大する竹林を阻止するには、個人では無理である。行政あるいは研究機関に働きかけ、その対応が急務である



竹分科会では里山と竹害を取り上げました。4月30日東金文化会館で行いました。シンポジウムでは、放竹林あるいは竹害についての説明、竹についての困っている方がいれば相談のり、竹についてのいろんな質問を出し、それに答える形で行いました。里山は本来美しい竹林で覆われていました。美しい竹林は日本の原風景です。竹馬の友と言われますように、これまでは子どもと竹とは切っても切れない関係でありました。ところが、この40年の間に里山をとりまく環境は大きく変化しております。里山の荒廃の一つの原因は放置された竹林にあります。放竹林は里山の生態系に悪い影響を与え、災害のもとになっていて、災害の危険性が最近指摘されています。写真をご覧ください。放竹によって裏山ががけ崩れを起こしている様子です。真竹や孟宗竹では地下茎が30センチまで伸びるのですが、放竹林では地下茎が弱り、一般的に考えられているよりも頻繁にがけ崩れが起きている。その30%から40%が放竹林が原因ではないかと調査し、対策を考えていかなければならないと思っています。子どもたちの健全育成には美しい里山と美しい竹林が欠かせません。そのためには放竹林の枯殺などの竹林の整備が急務です。課題としては、竹は地下茎で繁殖する特性があり、常識的な対応では歯が立ちません。竹についての基礎的な知識の普及が必要です。放竹林は生物の多様性を低下させ、土砂災害を起こさせているという危険性を多くの方に認識してほしいと思っています。拡大する竹林を阻止するには個人では難しいと思われるので、行政等による対応が望まれます。

(田代武男)

## 6 里山と食分科会

### 車座食談義 みんなで語ろう！ 千葉の食

●自然体験:

日時 2005年5月14日(土)  
会場 鴨川市 大山千枚田保存会佃田倶楽部  
参加者 36名



#### 1 太巻き寿司づくり

指導 千葉県伝統土料理研究会  
龍崎 英子さん 荻岸 喜子さん 杉崎 幸子さん  
伊藤 美美子さん 山形 礼子さん

#### 2 車座食談義「みんなで語ろう！ 千葉の食」

司会者 石田 三示さん(大山千枚田保存会理事長)  
池田 恵美子さん(南総ふるさと発見伝まほろば編集長)  
菅沼 弘夫さん(子どもに学ぶ会代表)  
平本 敏久さん(千葉の海産物を考える会代表)  
美濃輪 やよいさん(元千葉県生活改善普及員)  
山口 孝さん(地方公務員)  
龍崎 英子さん(千葉県伝統土料理研究会会長)

コーディネーター 遠藤 陽子(千葉自然学校理事)



#### 6. まとめ: 今、郷土料理や食について考えていること

##### ●現状

- \*先人の知恵を掘り起こし、伝える活動をやっている。食文化フォーラムを立ち上げた。
- \*伝承活動を進めたいと、子どもを対象に食文化啓蒙事業に取り組んでいる。
- \*子どもの頃の母の弁当が懐点。子どもたちにいまの食をどう伝えるか課題。
- \*自分達が普段食べているものにないもの、暮らしに自信を持ち、これを外の人たちに伝えていきたい。
- \*一律の栄養重視の食では、味覚が育たない。
- \*千葉の海岸は全国ワースト3、九十九里海岸の砂が失われている。
- \*山武郡内の農家のお母さんたちが太巻き研究会を立ち上げ活動してきた。

##### ●課題と結論 今後取り組むべきこと

- \*千葉の郷土料理は多いが、食に対する情熱がうすい。
- \*地元では「おきき」の得意なおぼろちゃん、まだまだる産品がある。
- \*地元の漁師は、ゴンズイ・ハコブガなどのおいしい食べ方を知っている。
- \*地域のおいしいものを集め、弁当コンテストなどをやって、これをコミュニティービジネスとして提供したい。
- \*佃田の米がなぜおいしいか？佃田は地すべりの復興の産物。
- \*おいしいものをどう普及するか、それには価値観や経済行為の転換が必要。観光業者は一律の料理で知恵がない、だからフォーラムを立ち上げた。



食分科会では5月14日に大山千枚田佃田倶楽部で開催しました。その昔、私は、農家の女性から昭和30年ごろまでは「谷津田は米びつ」だったと言う話を聞いて深い印象を受けたのを覚えています。日照が続いても大風が吹いても周りの里山に守られた谷津田というのは、大きな被害を受けることなく安定的に米がとれた田んぼだったのです。

このように、自然と深くかかわりながら、豊かな実りと家族の安泰を祈る暮らしの中で年中行事が生まれ、郷土料理が伝えられてきました。これを次代に伝えていくにはどうしたらいいか、ということでも話しあいました。

まず午前中は郷土料理の体験ということで、みんなで太巻き寿司づくりをしました。太巻き名人の龍崎先生に教えてみんなでつくって、それをお昼にしました。

午後は「車座食談義」里山、海とかかわる暮らしの中で生まれ伝え続けてきた郷土料理について語り、次代に伝えて行くために今必要なことについて語り合いました。

先人の知恵を掘り起こし、伝えるため食文化フォーラムを立ち上げて活動している事例や子どもを対象に食文化啓蒙事業に取り組んでいる事例が紹介され、今後も郷土料理を伝えていきたいというのが皆さんの意見でした。

今、農業改良普及員たちが調査したものを残す努力が必要。昔は集まりがあると「提げ重」を皆で持ち寄ったものだ。もう一度そういうものを取り戻す意味で、食の文化祭などをやったらどうか、或いは地域のおいしいものを集めて「南総里見八犬伝弁当」を作っている。コンテストなどを作って地域のおいしいものを集めコミュニティビジネスにすすめていきたい。子どもに対してはやはり、身体を動かし、おながすいた経験をさせ、「うまい！」という感動を体験させたい、などが話し合われました。(遠藤陽子)

## 7 里山と芸術分科会

### 谷津田における人と自然とアートの出会い

日時: 5月15日(日) 10:00~15:00

場所: 大やぶ池谷津田(千葉市緑区越智町)

参加者数: 約80名

#### 『工作ワークショップ~やっだのやばやそのや!~』

##### ●ゲームをつくろう!

竹を使ったゲーム作り(簡易的)を利用した大きなテーブル作りを行いました。

講師: 横田耕明(グループ2000)

##### ●野草で天ぷら!

大やぶ池のまわりの野草を採集して野草天ぷら、天ぷら(は)いていただきました。またチャリカフェという移動式カフェも登場。季節的に新米も登場しました。

講師: 林 正幸・横田耕明

##### ●楽器をつくろう!

竹を使った楽器作り、みんなで作りました。

講師: 小林正幸(ワグネル工房)



まとめ: この谷津田がたくさんの人にとって、来て、楽しんでもらう!

##### ●現状

・千葉市内に住んでいる方たちにも「大やぶ池谷津田」のことがあまり知られていない。  
・この谷津田に残土・産廃を投棄しようとする動きがある。

##### ●結論

・この地域のことを、もっとたくさんの人たちに向けてもらう必要がある。  
・この谷津田は自然豊かな素晴らしい場所。何かこの場所性を活かしたことをしたい。  
・子どもたちだけでなく、大人たちも取り込むような企画作りが大切になる。  
・一週間のイベントではなく、地域に根付くような活動を行っていることで、この場所の価値が活用が図られる。

##### ●課題

・この谷津田を多くの人々に知ってもらうために、どのような表現が考えられるか



野草の天ぷら

## 8 里山と医療・福祉分科会

### 谷津田における福祉の有り方と新たな相互理解や交流の試み

#### ●野外体験:

日時: 5月15日(日) (雨天の場合は5月29日(日))

場所: 千葉市緑区土気大藪池谷津田

子どもと何らかの障害のある方々を中心に工作作業を行う。参加者が個々の特徴を認め合い、助け合いながら楽しく活動することにより、地域福祉の在り方を模索する。

竹を使ったドームづくりと簡易的を使った机づくり

建築家: グループ2000代表の横田耕明

野草をとり、てんぷらをする+昼食

参加者は谷津田を散策して野草を採り、随時てんぷらにして食べる

チャリカフェで飲み物を振る舞う

(チャリカフェという移動式カフェ)

竹を使った楽器づくりとそれを使った演奏

ワグネル工房 小林正幸

里山の仲間たち 林



8 まとめ 工作ワークショップ・五月の谷津田における福祉活動

##### ●現状

・大藪池周辺は医療福祉施設が多い旧農村地域。  
・現在の美しい環境はNPOや地元住民の活動で維持されている。

##### ●結論

・小雨に100人前後が集合。自然・福祉への関心の高さを確認。  
・五月の谷津田を十分に体験。予想を超える活発な交流と創造が実現した。

##### ●課題

・谷津田をフィールドにした地域福祉の基盤作り。  
・活動が根付くには地道な呼び掛けと定期的な実施が大切。  
・今年は夏と秋に行事を予定。



里山と芸術分科会では5月15日に千葉市緑区土気大藪池谷津田を舞台にして創作ワークショップ「ヤツダノヤハヤツダノヤ」というタイトルで野外体験の企画を行いました。当日は小雨のばらつくあいにくの空模様だったにもかかわらず、途中参加の方やスタッフを含めると約100名の人たちが集まってくれました。小学生以下の子も達が多く、開会式前から元気いっぱいにはしゃいでいました。午前中は班を二つに分け、机、椅子制作、竹を使った道具作りを行いました。机づくりでは丸太切り、釘打ち、道具づくりでは竹を重ねて縛り、組み立てるといった力仕事が多かったので、中心となったのは親御さんやスタッフの方たちでしたが、子ども達もなおサポート役としてがんばってくれました。お昼は野草のてんぷらです。野草は周辺からとりあえず摘んできたもので、ほんとにすごいところに生えていたものばかり、これが以外に臭みがなく、くせがなくあっさりとお食べられました。またこの時、私達の企画であるチャリカフェという自転車にお茶などを積み込んで、いろんな所でカフェを開くという装置ですが、これで参加者のみなさんに飲み物を振舞い、好評を得ていました。午後は竹を用いた楽器づくりです。これには親も子も参加者全員が熱中していました。ぱっと見は簡単そうなんです、なかなか鳴らない、だからこそ楽しく夢中になれるという具合で、みなさんどどんのめり込んでいました。そのせいか出来上がったものはかなりのお気に入りになったようで、常に手の中にもち、ことあるごとにピーと吹いたりしている人もいました。一度吹くと分かるようです。ワークショップ終了後、また参加したいという声を多く頂いた一方で、このような企画があったことは知らなかったという方も多くいらっしゃいました。(宮村賢治)

私達は先ほど「里山と芸術分科会」で話をされた宮村さんたちと共に今回のワークショップを行いました。メインテーマを谷津田に置ける福祉のあり方と新たな相互理解や交流の試みとういうことでプログラムを行いました。プログラム内容は先ほど宮村さんが言っていたので大体は分っていたかと思いますが、机づくりなどでは子ども達を始めとして一生懸命工作に打ち込む姿が印象的でした。この大藪池周辺は医療福祉施設が多い旧農村地域で現在の景観というのはNPOや地元住民のみなさんの活動で維持されております。当日は小雨が降る中100人前後の多くの人々が集まっていた自然の中での芸術活動と、心身の活性化に関心の高いことを確認しました。

予想を超える活発な交流と創造が実現いたしました。今回のワークショップで谷津田をフィールドにした地域福祉の基盤作りがスタートしたと思います。活動の継続には地道な呼びかけと定期的な実施が大切だと考えるので、今後の予定ですが、今年は夏と秋に行事を予定しております。以上です。

(横田耕明)